

平成 24 年 3 月 30 日

平成 23 年度学位授与式告辞(抜粋)

学長 木元 幸一

卒業生の皆さんご卒業おめでとうございます。

ご卒業に際し、皆さんを送り出す側の代表として一言、お祝いを述べさせていただきます。

本学は平成 23 年度創立 130 年を迎えました。昨年、本学卒業生が 10 万人を突破しました。130 年前といえば勿論明治の初めですが、明治 14 年本学の創設となる和洋裁縫伝習所が設立されました。その後自由民権運動が活発だったのは明治 17 年ころ、大日本帝国憲法が公布されたのは明治 22 年です、明治 25 年東京裁縫女学校と改名、日清戦争は明治 27 年と続きます。

校祖の偉い所は、単に裁縫のできる女性を育てようというのに留まらず、教授法の画期的発明工夫とともに、裁縫を教える人材を育て、裁縫によって身を立てることを示したことです。当時の身をたてるということは、夫や家族を病氣、災害、戦争等で失った時、途端に女性が生活に困窮し、路頭に迷うような不幸な事態に陥ることになってしまう。それを防ぐためには、手に職を持てるようしなければならないという事で裁縫に加えて、算術、国語、英語、教育等の教科を学び、教養を積み、人の規範なる人格の形成にも力を注ぎました。校祖渡邊辰五郎の教えは、誰よりも尊く、またその誠実で気高い精神は広く知れ渡り、校祖渡邊辰五郎の教え子が開設した学校法人が今も全国に三十存在し、保育園幼稚園も含む学校は百以上にもなります。海外に出て、ブラジルで学校を作り今では一流の立派な大学となっているものもあります。女性の就学率の向上と教え子の教育界での活躍という功績により、国会図書館の HP (展示館の近代日本人の肖像というページ) の教育家というサイトに福沢諭吉や新島襄、津田梅子ら 13 人の中に吉田松陰の隣に堂々と並び称されています。

それから 130 年、校祖以来の建学の精神である「自主自律」の道を皆さんはこれから歩まれるわけです。

今年から、学園から渡邊辰五郎賞と緑苑クラブからの渡邊辰五郎奨励賞を設定いたしました。渡邊辰五郎賞は、大神のりえさんという方です。インド国際子ども村「ハッピーバリー」の開村とその国際交流活動に対して与えられました。昭和 49 年に東京家政大学を卒業し、平成元年 37 歳の時に、イギリスでの世界青年会議所第 44 回世界大会において傑出した若者に贈られる TOPY 大賞の世界平和部門の大賞を日本人で初めて受賞しました。UNESCO 憲章には「戦争は人の心の中に生まれるものだから、人の心の中に平和の砦を築かなければならない」という言葉があり、その素晴らしい言葉に基づき、日本ユネスコ協会より露木賞奨励賞や感謝状が贈られております。渡邊辰五郎奨励賞は、お二人方いらっしゃいます。一人は、昭和 62 年東京家政大学児童学科を卒業なさった石川庸子さんです。静岡県と埼玉県川口市で小学校教員をなさり、大学院に進む

機会を得、今度は川口市の教育委員会同指導主事等お勤めの後現在小学校の教頭先生を務めておられます。この間、埼玉県及び川口市の道徳教育の振興及び青少年の健全育成、非行防止にご尽力なさっております。奨励賞のもう一方は、笠岡宜代さん（旧姓坪山）です。東京家政大学附属女子高等学校を出て、同大学を平成3年に卒業後、大学院を出て、国立健康・栄養研究所にお勤めになりました。その間ハーバード大学やNIHとして知られる米国国立衛生研究所客員研究員を経て数々の国際学会等において発表し、国際的な学術雑誌に研究論文が掲載されております。特に、タウリンの肥満改善作用を解明した学術成果は世界のトップジャーナルであるサイエンス誌に大々的に取り扱われました。平成19年には、日本栄養改善学会奨励賞を受賞し、現在は国立健康・栄養研究所で食事摂取基準研究室長として、食事摂取基準のプロジェクトリーダーを務めながら、東日本大震災における栄養食糧支援に対する調査研究及び栄養改善の中心的役割を担っています。

渡邊辰五郎賞と渡邊辰五郎奨励賞における先輩の輝かしい活躍を、どうか皆さんは、同窓生として誇り高く受け止め、皆さんの、これからの「自主自律」の人生の大きな励みとなることを期待いたします。

本学二代目の学長である青木誠四郎先生が、「第二次世界大戦前の日本の貧しさの一つに生活技術の貧しさがある。これからは生活技術の豊かさを目指すことによって社会に貢献できる女性を育てたい。また、同時にそれは女性自身を幸せにしていくことでもある。」と考えました。大変素晴らしいお考えとお言葉ですのでそれに私の思いを乗せて少し話させてください。

東日本大震災後1年を過ぎましたが、未だに多くの方々が早くもとの生活に戻りたいと痛切に語っております。生活の再建に仕事が必要ですよと言っています。厚生労働省のまとめでは、被災地の有効求職者数で仕事を求める人の女性の数は、男性より多いのです。失業手当の受給率も女性の方が増えており、女性が6割を占めるに至っております。被災地では、また女性の起業家が増えています。女性の手掛ける事業の多くは小規模ですが、地元での自立のまず一步を踏み出しているという点でその意義は大変大きいと評価されています。また、内閣府の調査によると、2006～2009年間の新設約13万事業所のうち、事業主が女性の場合、従業員の9割は女性ということでした。

人生と言うのは色んな予測しないことが起こり、いわば困難の連続であるということも覚悟しなければいけません。私達は自分の生活を充実し、自ら困難と立ち向かっていく力をつけていくことが望まれます。いつの時代であっても、その時々生活を充実させることに、それぞれの時代の最大の努力があります。皆さんはこれから社会人となって本学を巣立って行かれます。社会の中で様々な繋がりができ、お互いに助け合っていくことが必要となり、他者をいたわることが大切です。そこに、社会人として生活する力というものが備わってくるのです。

一方で、自分自身の生活を充実することを考えなければならず、それには、

自分の生きる道について考えねばなりません。自分を考え、自分の個性、自分を生かす自分の良さ、自分の欠点、自分の生きていく道を見出す生活理念を持つことが大切です。そして自分の境遇をどのように生かすかということも考えなければなりません。社会人として生活する力を付けることと自分の生活を充実させることは相互に関連しています。自分が誰かの役に立っているんだと分かった時、自分の生活が充実していると初めて気が付く人もいます。自分の生活の充実だけを目指していても、いつか、何かが足りないと感じるはずです。

話は変わりますが、昨今、なんといっても明るい話題で嬉しいのは、なでしこジャパンの活躍でした。女子とはいえ、世界のスポーツと言われるサッカー文化の中で世界一になったのです。澤穂希さんは、女性でサッカーを続ける困難な状況の中でサッカーを続け、世界一となりメッシに並んで世界最高のプレイヤーになってしまいました。凄いですよね。また、今度のロンドンオリンピックでは全種目において男女がエントリーし、男性だけの種目が無くなりました。時代は確実に変化し動いています。

皆さん方には何よりも若さがあります。未来を築くに足りうる多くの時間と継続する体力と気力、そして本学で学んだ素晴らしい知恵と技術とを持っています。

本学は、皆さんの社会におけるこれからの活躍と、社会を営むそれぞれの人生を、いつまでも後押しし、応援していることをお伝えし、本日の学位授与式を記念しての告辞とさせていただきます。